

「会員短信 72」

「九十歳の奮起」

久松久子

作句を初めてから、あっという間の四十年である。この間、甲状腺や胃の手術をし、おまけによく転んで足首と右肩を骨折した。病気と怪我の間屋みただったが九十歳で生きている。丈夫だった姉、妹、弟は、続けざまにあの世に逝ってしまったのに。

昔から「一病息災」と云われるが、病、怪我があって気を付けたために長生きできているのかもしれない。

病気や怪我をする前は、日本国内のみならず台湾までも吟行に出かけていたが、今は流石に足が言うことを聞かない。右肩の大怪我をしてからは、肩から肘にかけてが人工骨のため、机の上に手を載せるのもひと苦勞である。字が上手く書けないばかりか、リュックサックも背負えない。

俳句大会に参加することもなくなり、家の中から投句、応募するのがやっとだが、先日、ある俳句大会で、特選入賞の知らせをいただいた。

飛ぶよりも走りの速き雀の子 久子

そして、名誉顧問の朝妻力先生の色紙を戴いた。

球蹴る子縄を回す子日脚伸ぶ 力

さらに、良いことは続くもので、十月十八日～二十日に、横浜赤レンガ倉庫一号館で開催される「イロドリのコトノハ2024」に、「甲羅干す亀も装ひ花衣」の句が採用された。プロの画家に絵をつけていただき展示されることになった。思いがけない受賞や採用に、嬉しさとやる気が湧いて来た。さあ、これからもまだまだ力のだし処があるはずだ。